

資料

## Jean Watson博士の「ヒューマンケアリング」を 看護教育に活かす方略

山本敬子<sup>1</sup>、朝倉由紀<sup>2</sup>、宮城裕子<sup>1</sup>、謝花小百合<sup>1</sup>

### I. 緒言

Watson博士のケアリングの教育活動は、世界各国の訪問による伝承と探究し続ける姿を通して、看護に携わる者に影響を与え、その理論は今も進化し続けています。今回のインタビューの中でWatson博士は、「私は看護学生の時、看護学教育の中に『人間的な部分が欠けているのではないか』と、既に気がついていました。それは、医学的な知識に集中しており、『人と人とのつながりに欠けている教育』にがっかりするものでした。そこで、心理学や東洋哲学などを学び、『教育を受ける』ということについて探究しました。」と回想されていました。ここでは、ヒューマンケアリングを看護教育に活かす方略についてWatson博士のメッセージを紹介します。

### II. 既存のカリキュラムにケアリングのエッセンスを融合

Watson博士らの開発したカリキュラムモデル『ケアリングカリキュラム 看護教育の新しいパラダイム (Bevis,Watson,1989)』の翻訳が出て十数年経ちますが、残念なことに筆者らは、具体的な導入方法のイメージがついていませんでした。また、すべての教育科目にGIO、SBOの設定の必要性には疑問もあるものの、行動主義の合理性を全面的に否定はできないでいました。インタビューでは、異なる看護

教育観を持つ教員間で、ケアリングカリキュラムを導入することは困難であり、またヒューマンケアリングについて熟知した指導的立場の教員のいない中で、ケアリングを教育実践に具体的に活かす方法はあるのかを単刀直入に伺いました。その質問に対してWatson博士は、冒頭に「教員の教育」の重要性を述べ、既存のカリキュラムに「ケアリングのエッセンスを入れていくことは、必ずしも相反するものではありません。今あるカリキュラムの中に融合できる部分があるはずです。」と話された。「もし、その部分に興味があるのなら、詳しく説明しましょう」と、「私は、時々このように説明するのよ」と、レポート用紙にさらさらと表を書き始めました(図1)。「ここにあなたの初段階の授業があるとすれば、初めの導入で、10項目からなるCaritas Processesを学生に紹介します(表1)。各講義の中に1から10の要素を統合させ、基本的に必要なものをどこで教えていくか考えます。例えば、内科外科(成人看護学各論)の科目の9回目の授業にCaritas Processの項目6の部分を含めたり、3回目の授業にCaritas Processの項目3で「信頼関係」に関することを入れたります。また、女性・小児・周産期看護のカリキュラムの中にCaritas Processes 10項目の全ての項目を取り入れるように関連する科目担当の教員に依頼したりするといいかもかもしれません。教員は、それらを取り入れられるように領域間で検討しようと努力するかもかもしれません。初段階のコースの導入の中で、ケアリングやケアリングサイエンスという用語を紹

<sup>1</sup> 沖縄県立看護大学

<sup>2</sup> 日本人間環境大学看護学部

			Caritas Processes(脚注)										
each course			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
I	course 「初段階の授業」	導入 Nursing as Caring			Caritas Processes 10項目を順番に学生に紹介								
II	Medical Surgical	Caring Moment			信頼関係 例:3回目 に教える				例:9回目 に教える				
III	Women's Children's Newborn												
.													

図1 Watson博士の書かれた Caritas Processes(脚注)の教え方の例

表1 Caritas Processes (Watson,2012, Watson, 稲岡(訳),2014)

1	自己と他者に対する愛情—優しさ/共感と冷静さの実践
2	心を込めてそこに存在していること；自分と他者が信念体系や主観的世界をもてるようにする
3	自分自身のスピリチュアルな実践を磨く；自己を超えて真正のトランスパーソナルな存在へ
4	愛情に満ちた信頼とケアリングの関係を維持する
5	感情の表出を許容する；よく耳を傾け、“その人にとっての物語を理解する”
6	自己というものを使いこなし、ケアリングプロセスを通して創造的な問題解決を探る。：知ること/行動すること/であることというあらゆる方法を用いる；ヒューマンケアリングヒーリング過程と様態というアート性に関わる
7	ケアリングという文脈での真の教育-学習；ケアを受ける人が基準とする枠組みに留まる；健康-ヒーリング-ウェルネス・コーチングモデルへと移行する
8	すべてのレベルで治療環境を創造する；エネルギー・意識・全体性・美しさ・尊厳・平安について、身体的にも非身体的にも、行き届いた環境を整える
9	敬意をこめて、丁寧に、基本的なニーズを支援する。聖なる実践として、他者の具現化された魂に触れることに、意図的なケアリング意識を持つ。他者の生命力/生命エネルギー/生命の神秘と手を携えて仕事をする
10	人生の苦難・死・苦しみ・痛み・喜び・生活の変化すべてについて、スピリチュアルな・神秘的な・未知で実存的な次元に心を開き、注意を払う；“奇跡はありうる”。これが知識基盤と臨床能力の前提とされる

介します。Caritas Processesで用いられる関連用語をより多く取り入れていくことによって、学生たちもその用語に慣れ親しむようになるからです。『ケアリングとは何か』ということをしつかりと定義づけることは、何となく行っているケアではなく、ケアリングを定義づけられたものとして学んでいけるのです。このコースをやっていくことは、学生にとって良い機会となり、ケアリングの瞬間に関わることができる良い機会という風に指導をします。こういう概要的な説明をしていくということです。教員が

学生の学習経験をどのように活かしていったらいいのか模索し、検討できるようにマネジメントしていきます。そして、学生もそういう経験に招いていきましょう。学生が『これがそうだ』と気づき模索できるようにしていくと良いでしょう。」「カリキュラムが決まっているからできないというのではなく、できることからすることで、少しずつ取り入れてみましょう。例えば、『ケアリングの瞬間(Caring Moment)について、どのような体験がありましたか』と課題を出して、『私の体験はこういうものでした』

という学生のプレゼンテーションができるような機会をつくるというのでもいいかもしれません。そういう経験がエビデンスになるし、学生が教員と共に、この色々挙げられている要素を裏付けるエビデンスを自覚できます。その過程で、学生は自分の中で気付かないで実践しているかもしれないことを自覚できるようになるでしょう。理論と実践が別々にならないで融合された形になるのです。学生のモチベーションや自己効力感の影響について、エフィカシースケール (CARING EFFICACY SCALE:Coates, 1 ; Watson,2003) を、実際に学生に活用して評価しても良いのではないのでしょうか。」と具体例を含めた的確なアドバイスを提示されました。

### Ⅲ. Attending Nurseの育成

次に、忙しい臨床で働く看護師が、ヒューマンケアリングの実践をどのようにしていけば良いのかについて質問しました。その間に Watson博士は、「日本もアメリカも経済中心であるため、『やり方を変える』、『焦点を変える』という働き方にしないといけないのではないのでしょうか。それは、意識改革が主な焦点になるのではないかと思います。忙しいのはもちろんですが、一度、立ち止まってみて、『私の中でどういうことが起こっているのだろうか』と思案するプロセスを作るということを看護の中に入れていかなければならないのです。看護師不足というのも、このやり方では足りないという

ことになっていく、逆に考えると、それは変革するための良い機会であるかもしれないのです。」 Watson博士は、1つの文献を取り出して、「この記事では、看護師不足は、人数は少なくても、より良い看護師をたくさん育てることによって、それらの看護師の知識を用いて仕事のパターンを変えることをしていけばいいと書いてあります。ケアリングの質を観ることが出来るリーダー的な看護師を作らなくてはならないのでしょうか。リーダー的な存在がいることで、ケアリングの瞬間に気づき、『こういう風に変えてはどうか』ということに気づいていくわけです。簡単なことではないです。Attending nurseは、ケアリングサイエンスの中心となる人であり、スタッフ全員を教育する責任があるのです。そして、患者・家族へ本当にケアが提供できているかどうかを確認する必要があります。次の学会で、このようなことを取り上げる予定をしています。」と話されました。Attending NurseあるいはAttending Caring Nurse(ACN)とは、Watson博士らの開発したACNモデルの論文にその定義(表2)が記載されています (Watson,2003)。

### Ⅳ. トランスパーソナルな関係とケアリングの瞬間に気づき

最後にWatson博士のケアリング理論を理解する上で最も難解なトランスパーソナルな関係とケアリングの瞬間に気づくことについて、質

表2 Attending Caring Nurse(ACN ; Watson,2003) の定義

<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者および家族とのケアリング関係の構築と継続的な維持を行う。このような関係は入院前か、または入院時にケアリング関係を構築し、退院後のフォローアップまで継続する。</li> <li>・ケアリングニーズの包括的なアセスメントと懸念、患者の行動や思考の基準についてケアリングニーズのガイドとしてケアリング理論を活用する。</li> <li>・懸念についての主観的および客観的な意味をアセスメントする。</li> <li>・医療計画と調和させてケアリングとヒーリング(癒やし)の包括的計画について、患者や家族と共創する。</li> <li>・包括的ケア計画の監督と保証 例：ケアリングヒーリング看護療法に関連した治療的方法を実行する。</li> <li>・継続性を保証するために看護師および医師やチームメンバーとの直接的なコミュニケーションを開発する。</li> </ul>
---

問しました。Watson博士は「西洋的な考え方の中には、バランスによって世界が動いているという考え方が欠けています。西洋的、特に西洋医学は、切って治すというのは『陰』に当たると考えます。そこからは、癒しというものは生まれてこないでしょう。癒しというものは、世界のバランスによって成り立っているという考え方がなければ、切っても治らないわけです。癒しというのは、逆のエネルギーから生まれてきます。そういうことを自覚しなければならぬのです。それらの意味をもって取り入れるようにしてきました。そして、看護はそういう癒しの要素を持っているのです。そういうバランスの基で、人は、精神と身体のバランスをとって癒されていくのでしょうか。そのパラドックスからエネルギーの動きというものがあるということを知覚しなければならぬので、本を書いてきたのです。これは、私の成長の過程であり、発展してきたプロセスの中で起こってきたものです。私たちが表現していかななくては、皆さん、そういうことがあること自体に気づかないでしょう。気づかないということは、ないも同じなわけですよ。それを表現するための用語を持たなくてはならぬのです。そのためにそういう用語を創り出すということに力を入れているのです。多くの場合、私は、自我とトランスパーソナルな関係ということをもってくることによって、よりわかりやすく表現するように努力しているのです。」と説明された。

## V. Caritas Coachの育成

2011年のインタビューから数年経ち、2003年にAttending Nurseモデルからさらに進化し、Watson博士らは、Caritas Nurseのリーダーを養成するコースを開講しています。このコースは、Caritas Coach Education Program (CCEP)といい、カリタスプロセス

に基づいて実践活動ができるだけでなく、他のナースへの教育もできることを目指しています。研修は、2回の実質的な研修参加が求められます。理論のコアの学習、heart math、様々なエビデンスの学習、また体験型研修も多く含まれています。研修の最終日にWatson博士より修了書の授与があり、Caritas Coachとなります。コロラド大学看護学部を通して、この研修に参加することができます。

## VI. 結語

ワトソン博士は、ヒューマンケアリングについて、患者だけでなく「看護師の心を満たすケアを提供できるように支援する」とし、看護の醍醐味を実感する瞬間を体験することの意義に触れられています。臨床現場でリスクテイクを要求されるあまり、本来したいと願う看護ができないと嘆く看護師は少なくありません。トランスパーソナルなケアリングの瞬間を体験した看護師は、看護の喜びを実感し、それは意欲につながりポジティブな循環が生まれます。このインタビューを通して、ヒューマンケアリングの教育に力を注ぐ、ワトソン博士の思いに触れた気がしました。

## VII. 謝辞

突然の訪問に快く教え導いてくださったJean Watson博士に深く感謝申し上げます。また、貴重な機会を与えてくださった日本人間環境大学看護学部長、島内節博士、元コロラド大学International Program & Public Relations室のdirector Dian C. Lenfest氏に心より感謝申し上げます。

本稿は2011年8月30日、コロラド大学ボルダー校近郊ホテルロビーにて、Watson博士へのインタビュー内容にその後の進展を取り入れて加筆したものです。

引用文献

Em Olivia Bevis, Jean Watson (1989/1999).  
安酸史子 (監訳) ,ケアリングカリキュラム看護教育の新しいパラダイム Toward a Caring Curriculum : A New Pedagogy for Nursing, 医学書院, 東京

Jean Watson (2001/2003). 筒井真優美 (監訳) ,看護におけるケアリングの探求 手がかりとしての測定用具 Assessing and Measuring Caring in Nursing and Health Science, 日本看護協会出版社, 東京

Jean Watson, Roxie Foster. (2003). The Attending Nurse Caring Model: integrating theory, evidence and advanced caring-healing therapeutics for transforming professional practice. Journal of Clinical Nursing, 12( 3), 360-365.

Jean Watson. (2012). HUMAN CARING SCIENCE , A Theory of Nursing ( 2 nd Edition), JONES & BARTLETT LEARNING, Sudbury, MA

Jean Watson (2012/2014). 稲岡文昭、稲岡光子、戸村道子 (訳) ,ワトソン看護論, ヒューマンケアリングの科学,(第2版), 医学書院, 東京

Caritas Coach Education Program (CCEP)  
<http://watsoncaringscience.org/about-us/caring-science-definitions-processes-theory/global-translations-10-caritas-processes/> 2015年10月20日現在

University of Colorado College of Nursing  
Office of Continuing Education and Professional Development, Caritas Coach Education Program  
<http://www.ucdenver.edu/academics/>

[colleges/nursing/programs-admissions/doctoral-programs/doctor-philosophy/caringscience/Documents/WCSC-program-CCEP-cohort-14\\_FLYER\\_2015.pdf](http://www.colleges/nursing/programs-admissions/doctoral-programs/doctor-philosophy/caringscience/Documents/WCSC-program-CCEP-cohort-14_FLYER_2015.pdf) 2015年10月20日現在